

# 草津市歴史文化基本構想シンポジウム 参加者アンケート

## (1) 実施概要

**目的：**草津市歴史文化基本構想の趣旨・内容の理解度等を把握し、本シンポジウムの効果を分析するとともに、今後の歴史文化を活かしたまちづくりを行政と住民が協働して推進するために、歴史文化基本構想や運営・広報等についての参加者の意見や感想を明らかにすることを目的とした。

**実施方法：**草津市歴史文化基本構想策定記念シンポジウム「守り、育み、活かす 草津の歴史文化」の受付において配布資料と一緒に配布し、シンポジウム終了時に会場出口にアンケート票回収ボックスを設置して回収した。

**募集対象：**シンポジウム参加者

**実施日：**平成31年(2019)3月21日

**設問内容：**①シンポジウムを何で知ったか

②シンポジウムに参加した理由は何か

③「草津市歴史文化基本構想」の内容は理解できたか

④興味を持った関連文化財群は何か

⑤シンポジウムへの参加前後の変化

ア 豊かな生活を送る上で歴史文化は必要だと思うか

イ 地域の歴史文化について学びたいと思うか

ウ 歴史文化に係るまちづくり活動に参加したいと思うか

⑥草津市における歴史文化を活かしたまちづくりに対する意見、シンポジウムについての感想(自由記述)

## (2) 実施結果

### ◆回答状況

配布数：113人

回答数：65人

回答率：57.5%

参加人数に対して高い回答率を得ることができた。

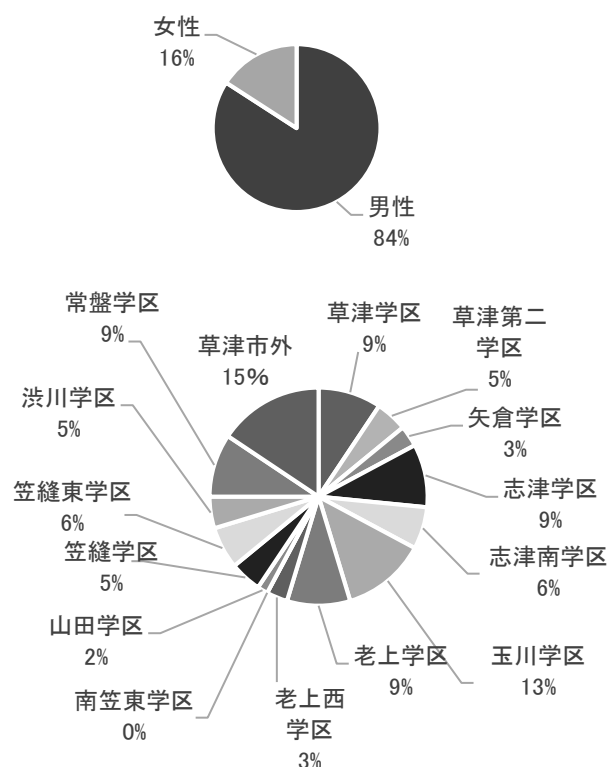
### ◆回答者属性

**性別** (有効回答者数 63人)

男性が53人(84%)、女性が10人(16%)と男性が大半を占めている。無回答が2人であった。

**住まい** (有効回答者数 64人)

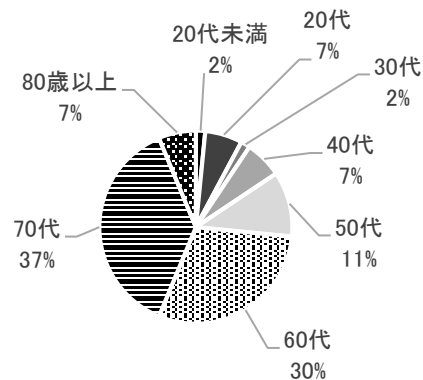
草津市内では、玉川学区が8人(13%)と最も多く、草津学区・老上学区・常盤学区がそれぞれ6人(9%)、志津南学区



および笠縫東学区が 4 人 (6%)、渋川学区 3 人 (5%) と続いている。一方、草津市外からも、滋賀県他市 (大津市、栗東市、彦根市他)、京都府、兵庫県から 10 人 (15%) に上る参加が見られた。

**年齢** (有効回答者数 64 人)

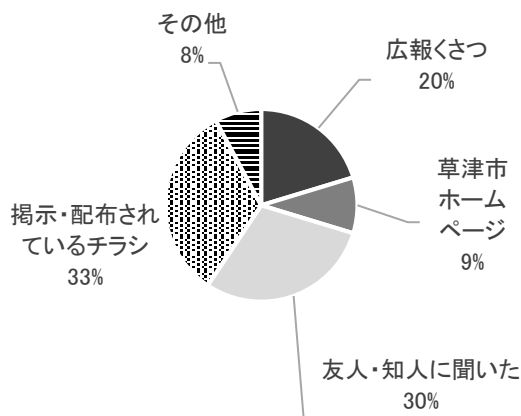
70 代が 24 人 (37%)、60 代が 19 人 (30%) であり、60 代・70 代が全体の 7 割弱を占める。次いで 50 代が 7 人 (11%)、20 代と 40 代と 80 代がそれぞれ 4 人 (7%) であった。20 代未満と 30 代は 1 人 (2%) に止まり、若者世代の参加をさらにうながすことが課題といえる。



①このシンポジウムを何で知りましたか？

(有効回答者数 64 人)

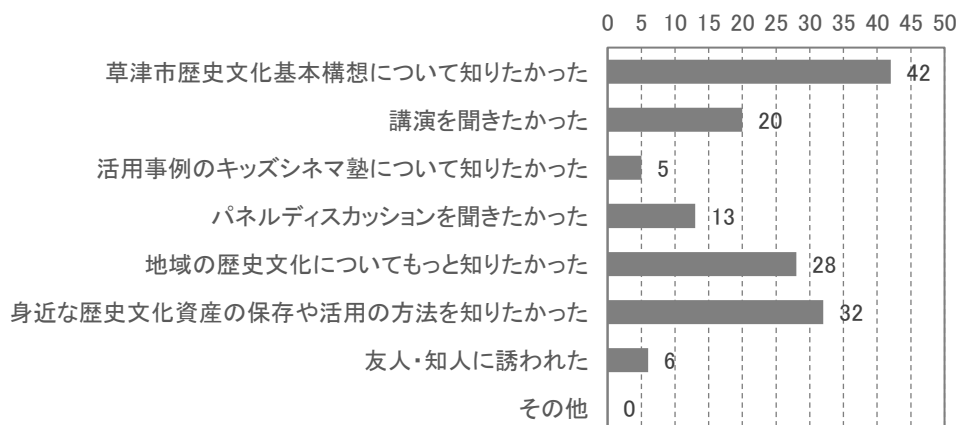
「掲示・配布されているチラシ」が 21 人 (33%) と最も多く、「友人・知人に聞いた」が 19 人 (30%)、「広報くさつ」が 13 人 (21%) と続いている。一方で「草津市ホームページ」を見て訪れたのは 6 人 (9%) と、市ホームページによる本シンポジウムの周知が市民の目に十分には届いていないといえる。「その他」の 5 人 (8%) の内容は、街道交流館やまちづくり協議会による案内であり、アナログで開催情報を得た人が 9 割以上を占めた。今後は草津市ホームページのトップページの「新着情報」に掲載してリンクさせたり、ポスターを作成して各所に配布・掲示したりするなど、より多様かつ効果的な方法でシンポジウムの周知に努めることが求められる。



②このシンポジウムに参加された理由は何ですか？(複数回答)

(有効回答者数 64 人)

「草津市の歴史文化基本構想について知りたかった」が 42 人と最も多く、「身近な歴史文化資産の保存や活用の方法を知りたかった」が 32 人、「地域の歴史文化についてもっと知りたかった」が 28 人、「友人・知人に誘われた」が 6 人、「講演を聞いたかった」が 20 人、「活用事例のキッズシネマ塾について知りたかった」が 5 人、「パネルディスカッションを聞いたかった」が 13 人、「その他」が 0 人。

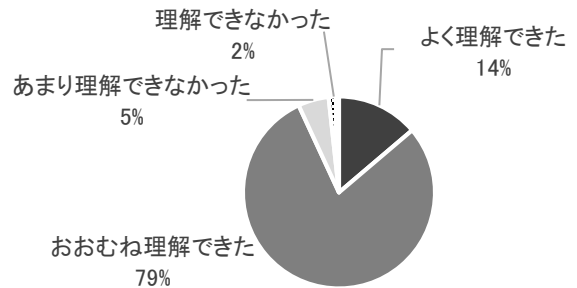


た」が 28 人、「講演を聞いたかった」が 20 人、「パネルディスカッションを聞いたかった」が 13 人、「活用事例のキッズシネマ塾について知りたかった」が 5 人と続いている。草津市歴史文化基本構想や地域の歴史文化についての解説や、身近な歴史文化資産について、具体的にどのように保存・活用に取組めばよいかの説明を聞きたいという要望が多いことがうかがえ、今後もこのような視点からのシンポジウム等の開催が重要といえる。

③「草津市歴史文化基本構想」の内容はご理解いただけましたか？ (有効回答者数 58 人)

「おおむね理解できた」が 46 人 (79%) と最も多く、「よく理解できた」が 8 人 (14%) と続いている。これらを合わせると 93% となり、本シンポジウムを通じて、参加者の大半が「草津市歴史文化基本構想」の内容を理解されたという点で効果があったといえる。

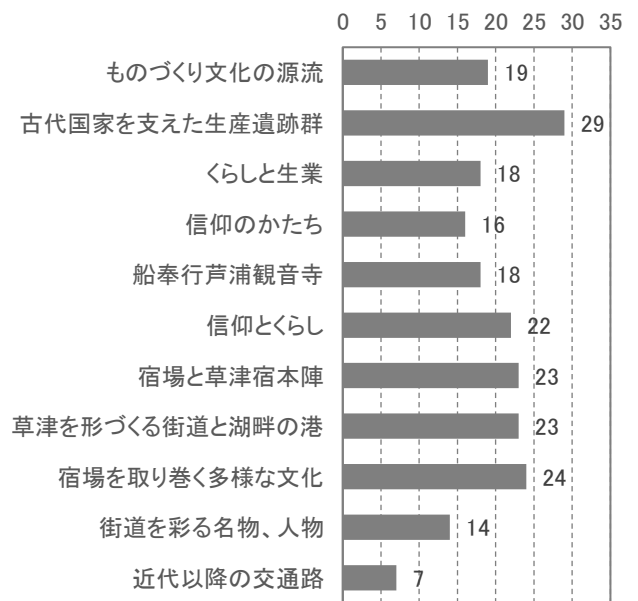
ただし、有効回答者数は 58 人とどまった。



④「草津市歴史文化基本構想」で設定した 11 の関連文化財群のうち、何に興味を持ちましたか？ (複数回答可) (有効回答者数 59 人)

「古代国家を支えた生産遺跡群」が 29 人と最も多かった。「宿場を取り巻く多様な文化」が 24 人、「宿場と草津宿本陣」と「草津を形づくる街道と湖畔の港」が 23 人と多く挙げられ、宿場町草津の歴史文化に興味を持つ人の多さがあらわれていた。

「信仰と暮らし」22 人、「ものづくり文化の源流」19 人、「くらしと生業」18 人、「信仰のかたち」16 人、「街道を彩る名物、人物」14 人と続いた。一方で、「近代以降の交通路」は 7 人とどまった。今後は近代以降の草津市にも光を当て、価値が未発掘なものもわがまちの歴史文化として愛着を育めるよう認識の共有を図ることも求められる。

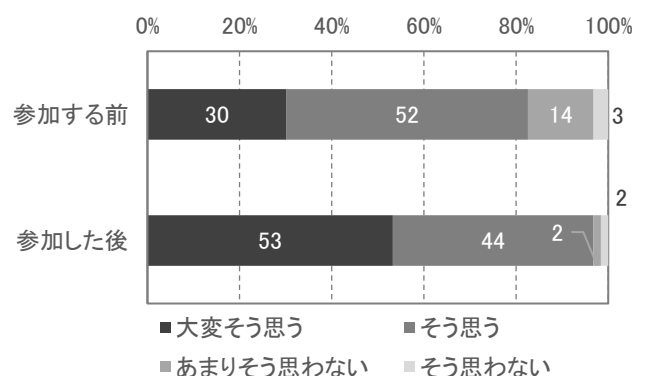


⑤このシンポジウムに参加する前と後のそれぞれについて

ア 豊かな生活を送るうえで歴史文化は重要だと思う

(有効回答者数：前 63 人、後 62 人)

参加する前は「大変そう思う」19 人 (30%)・「そう思う」33 人 (52%) があわせて 52 人 (82%)、「あまりそう思わない」9 人 (14%)・「そう思わない」2 人 (3%) があわせて 11 人 (17%) と、既に

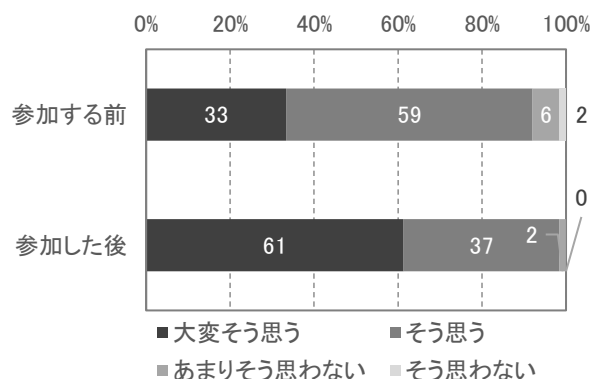


歴史文化の重要性を認識している人が8割以上を占めていた。参加した後は「大変そう思う」が33人(53%)、「そう思う」が27人(44%)となり、本シンポジウムを通じて、多くの参加者がより一層歴史文化の重要性を認識したことがうかがえる。

## イ 地域の歴史文化について学びたいと思う

(有効回答者数：前63人、後62人)

参加する前から「大変そう思う」21人(33%)・「そう思う」37人(59%)があわせて58人(92%)に上っていた。参加した後は「大変そう思う」が38人(61%)、「そう思う」が23人(37%)、「あまりそう思わない」が1人(2%)、「そう思わない」が0人となり、本シンポジウムを通じて、多くの参加者がより一層地域の歴史文化について学びたいと思うようになったことがうかがえる。



## ウ 歴史文化に係るまちづくり活動に参加したいと思う

(有効回答者数：前62人、後63人)

参加する前は「大変そう思う」が13人(21%)、「そう思う」が29人(47%)、「あまりそう思わない」が17人(27%)、「そう思わない」が3人(5%)であった。参加した後は「大変そう思う」が19人(30%)、「そう思う」が38人(60%)とまちづくり活動への参加意向が増加し、「あまりそう思わない」が5人(8%)、「そう思わない」が1人(2%)と大幅に減少した。講演やパネルディスカッションを通じて具体的なまちづくり活動の取り組み例を想像する機会を得て、実践への意識向上が図られたことがうかがえる。

